

2014 年度事業計画

学校法人中内学園
理事長 中内 潤

学校法人中内学園 流通科学大学は、世界で唯一、流通を総合的に科学する大学として、1988（昭和 63）年に商学部のみで開学して以来、総合政策学部、サービス産業学部、そして大学院（修士課程・博士後期課程）の 3 学部・4 学科、1 研究科にまで発展することができました。

「流通を科学的に研究教育することを通じて、世界の平和に貢献し、真に豊かな社会の実現に貢献できる人材を育成する」という建学の理念のもと、「ネアカ のびのび へこたれない（どこに出ても物怖じすることなく、誰とでもしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜く）」精神を持った有為な人材の輩出に尽力し続けております。

しかしながら、本学を取り巻く外部環境・内部環境の変化は想定を超えた早さで起こっており、本学もこの厳しい変化に対応しなければなりません。

<「オンリーワン・ナンバーワン」の教育環境構築>

2014 年度事業計画については、「選択と集中」を基本的な考え方とし、“オンリーワン”あるいは“ナンバーワン”と言われる教育環境を作り上げる（教育改革）を最重点項目といたします。また、短期・中長期の入試広報戦略を遂行することにも重点を置いています。

以下に 2014 年度事業計画の考え方を示しています。この考え方を全教職員が認識し、一丸となって各計画の遂行に努めてまいります。

<2014 年度事業計画の考え方>

- ・本学の強みを取り戻すため、“オンリーワン”あるいは“ナンバーワン”の教育環境を作り上げる（教育改革）⇒「選択と集中」
- ・スピーディーな教育改革を実施し、教職員が一丸となって、継続性を持って取り組む
- ・教育改革と並行して、短期・中長期の入試広報戦略を遂行する
- ・退学・除籍者数を逡減させるために様々な施策を実施する。

【2014 年度事業計画重点項目】

本学の強みを取り戻すため、“オンリーワン”あるいは“ナンバーワン”の教育環境を作り上げる（教育改革）

オンリーワン・ナンバーワン施策

①日本で類を見ない初年次教育プログラムを完成させる（2015 年度スタートに向けた最終調整）

納期：2015 年 3 月

目標：学びの源泉である将来の夢や目標（将来の職業を含む）、学問的興味や関心を見つける「気づき」を促すプログラムを完成させる

※全体的な視点で見たときに、医者を目指す医学部生、弁護士を目指す法学部生といった、国家資格取得を目指す等の確固たる将来の目標を持った高校生（受験生）の割合は非常に少ないと言えます。よって、本学では初年次において将来の夢や目標を見つけるといった気づきを促す教育を最重要視しています。

- 対策：
- ・自らの可能性や興味関心に気づくためのプログラムの完成（在学生・卒業生・企業人とのコミュニケーションを通じた気づき、多様なグループワークを通じ、自分自身や他者を理解することによる気づき、海外体験を通じた気づき（海外研修））
 - ・将来の夢や目標を実現するための 4 年間の計画を立案し、計画と実際を振り返り、成長の軌跡を自らが確認できるシステム（学生ポートフォリオ）の構築
 - ・主体性を導き出すための双方向的要素を取り入れた多様な教養プログラムの完成
 - ・初年次教育担当教員集団（クラス担当教員）の組織化（新規採用、クラス担当教員に対する教育の徹底、クラス運営を支える SA の組織化）

②流通科学大学オンリーワンの教育プログラムの模索

※オンリーワンの教育プログラムの例

- ・「リテール（流通）人材を育成する全国オンリーワンの大学」
- ・「観光人材を育成する全国ナンバーワンの大学」
- ・「事業承継予定者を育成する全国ナンバーワンの大学」

納期：2015 年 3 月

目標：他に追随を許さない流通科学大学オンリーワン・ナンバーワンの教育プログラムを開発し、高校生に一番に選ばれる内容とする

- 対策：
- ・リテール人材育成プログラム、海外流通リテール研修、観光人材育成プログラムなど、他大学にない、本学既存のプログラムを更に発展させる
 - ・「事業承継者育成プログラム（全学部共通）」を創設し、事業の種類に問わず事業経営者に求められる知識を徹底的に教育する
 - ・英語で流通を学べるプログラム構築に必要な海外の受け入れ先（大学等）を開拓する
 - ・現在の特別講義を整理し、「企業人から実態を学ぶ教育体系」を再構築する
 - ・成績優秀者向けの「スペシャルプログラム（全学部共通）」を創設し、他大学が招聘できるレベルを超えた講師陣を揃え、双方向型の授業（講師との討論）ができるようにする

③学生が規律性を身につけるための施策徹底

納期：2015年3月

目標：・2014年度喫煙率16%以下

(参考)過去の学生の喫煙率

2011年度18.7%⇒2012年度18.6% 2013年度17.8%

- ・公認クラブ加入率43.0%以上(前年度42.5%)
- ・学生・教職員全員が(ごく自然に)挨拶できる
- ・近隣あるいは競合他大学と比較して最も優れている授業環境(ハード面・ソフト面)の整備

対策：・キャンパス全面禁煙の徹底および禁煙推進活動(学外近隣も含むスタッフの巡回強化、学生の希望者への禁煙パッチ配布、校医による禁煙指導、受動喫煙防止ポスター・のぼり等による禁煙啓蒙活動)

- ・指導者配置によるクラブ実績向上(目標の設定、達成状況の確認等)とスカウティング強化
- ・クラブを中心とした挨拶運動の定着化(クラブリーダーを中心として、リーダー研修、フレッシュマン研修を通じて挨拶の重要性を伝える。教職員が挨拶を率先して行う。)
- ・授業環境(ハード面・ソフト面)の整備(少人数教育の推進および大人数授業の逡減、小教室の整備など)

短期・中長期の入試広報戦略を遂行する

◎受験生への直接的広報実施(オープンキャンパス・入試相談会への来場促進、最終的に出願に導く)

納期：2014年12月

目標：・オープンキャンパス高校3年生の参加者数1,000名(前年度739名)

・オープンキャンパスの総参加者数2,500名(前年度2,420名)

・入試相談会高校3年生の参加者数800名(前年度617名)

対策：・接触者数の増加(進学情報誌への広告掲載、テレビCM等)

・接触者(資料請求者、入試相談会参加者等)のオープンキャンパスへの誘導(オープンキャンパスプログラムの紹介ツールの送付等)

・学生スタッフの研修を重視し、接触対応能力の向上を図る

・高校への出張講義

・在学生による母校訪問

退学・除籍者数を逡減させるための様々な施策を実施する

◎中退予防策の立案および実施

納期：2015年3月

目標：今後5年間で退学・除籍者数半減

対策：学生課・教務課が協働で、中退予防に関する短期の対策を早期立案して実施、並行して中長期の対策についての議論を進める